

令和7年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は「学習活動（教科指導の充実）」「学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）」「進路支援（進路目標の設定とその実現）」「特別活動（ボランティアと図書）」「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」の5項目を重点項目とし実践した。いずれの項目についても生徒の実態に合わせて目標を設定した。

(1) 「学習活動（教科指導の充実）」

今年度、新たな達成目標を設定したが、2学期終了時点では厳しい結果となっている。評価にCをつける責任を自覚し、その生徒に対しての指導の在り方を見直していく必要がある。Cの重みを考えると、5%の基準は厳しいものではないと考える。Cは指導者自身の評価でもあるという意識で、指導内容や評価基準を見直していく必要がある。

・生徒の自己評価は、教科指導ではとらえきれない生徒の実態を把握する機会にもなっている。生徒の現状を理解し、生徒が意欲的に学習に取り組める環境を作るために、生徒の自己評価と教員の評価を比較し、指導や評価基準の見直しに役立てていく必要がある。

(2) 「学校生活（生徒指導の充実と健康な心身の育成）」

部活動の生徒が参加し挨拶運動を展開し3年が経過した。次年度は、部長会議を数回実施し、部活動指導の1つとして挨拶の徹底や取り組みについて指導していく機会を増やしていきたい。

心の問題を抱える生徒が多くなっている。教職員が保護者やSC、医療機関と連携をして、「相談しやすい」環境づくりの充実に努めていきたい。

(3) 「進路意識（進路目標の設定とその実現）」

進路および3学年担当教員は、大学入学共通テスト出願のデジタル化・模試成績のデジタル化への移行期間、学校推薦型選抜、総合型選抜による受験枠の増加など変化への対応に追われた。次年度以降、外部模試のデジタル化がさらに進むが、紙データ、デジタルデータのよい部分を精選して利用して、今年度より多く生徒の進路実現を支援できるようにしたい。

(4) 「特別活動（ボランティアと図書）」

ボランティア活動では、参加する生徒たちが昨年よりも増えたり募金額も増えたりと成果を感じた。来年度に向けて、全生徒が関心をもってくれるようなピアールの方法を工夫して理解を深めていきたい。

図書室が、生徒の学習の場となっている。良いことではあるが、いかにして読書量を増やす活動が考えられるか考えていきたい。

(5) 「その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）」

検定の結果を入試で活用できることなど、資格取得のメリットを生徒に伝え、資格取得に積極的に取り組むよう意識付けたい。また資格取得に向けての勉強を通して、着実に英語力を身に付けさせたい。

国際社会状況を見極めながら、英国語学研修が少しでも生徒にとって充実した内容となるよう検討を続けていきたい。

7 次年度に向けての課題と方策

今年度は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価について目標設定した。評価基準が各教科、各担当者によって大きく違う観点であると感じたと同時に、これを機に、指導者自身の評価でもあるという意識を持ってもらう機会となれば良いと思う。評議委員の方々から頂いた意見を参考に次年度は改善をし、よりよいものとしていきたい。

さらには、評議委員の方々から、評価が良いのはどうかという意見も頂いた。A評価を得たものに関しては、さらに目標設定を高くするなど改善していく必要がある。また、評価については、外部評価されるものではないかという意見も頂いた。次年度に向けて、評価の仕方についても検討する必要があると感じた。